

宇都宮市民憲章

- 1 健康で、心のふれあう明る
いまちをつくります。
- 2 きまりを守り、活気あふれる
楽しいまちをつくります。
- 3 学ぶことを大切にし、文化の薫
る美しいまちをつくります。

、編集・発行 宇都宮市立図書館 明保野町7番57号 〒320 TEL 36-0231

としあか

この本・多々を楽しく
読書案内

今年もまた、一年をふり返る季節となりました。気に入った本との出会いがありましたか。それとも、読もうと思っていたながら読めなかつた本のほうが多かったでしょう。あなただけの「ベスト10」を作ってみるのも楽しいことですね。

ここでは、今年の話題の本から何冊かをご紹介します。まず、日本文学の中からひろってみます。

- ◆誰が悪いのでもない・萩原葉子著・海竜社・著者自らの、暗い運命を想いながら書かれたものです。
 - ◆輝ける碧き空の下で(第二部)・北杜夫著・新潮社・日本人のブラジル移民史を題材にした長篇。
 - ◆スキヤンダル・遠藤周作著・新潮社・私小説。モデルは著者自身かとさわがれました。
 - ◆化身(上下)・渡辺淳一著・集英社・ベストセラーとなり、映画化されてさらに話題をよびました。
- 文学以外の分野でも、たくさん本が出版されました。
- ◆知価革命・堺屋太一著・PHP研究所・世の中がどうなっているのかを鋭く考察した一冊です。



大黄河(全5巻)・NHK取材班編・日本放送出版協会・壮大な文明史の記録で、大河の千変万化の様相をみます。◆ヒトはなぜ進化するか・中原英臣著・泰流社・進化の主役はウィルスだという著者の新しい進化論です。

さて、海外の作品にも目を向けてみましょう。

- ◆レッドオクトーバーを追え(上下)・トム・克蘭シー著・文藝春秋◆コンタクト(上下)・カー・セーガン著・新潮社◆洪水のあと・P・C・ヤシルド著・岩波書店・この3点は、主題とする分野は違いますが、いずれも近未来を扱った長篇小説です。
- ◆アキノ

家三代(上下)・ニック・ホアキン著・井村文化事業社・アキノ家の歴史から眺めるタイムリーなフイリピン史です。◆住んでみた日本・バーナード・クリッシャー著・サイマル出版会・「外」から見た日本の姿を、ありのままに描いています。

絵本

その中でも、おとなと子どもがいつしよに読んで楽しめる本を選んでみました。

- ◆言葉図鑑(1-6)・五味太郎著・偕成社・絵を読んでいく楽しさのうちに、自然と言葉が身についていきます。
- ◆かぜひきたまご・舟崎克彦文・杉浦範茂絵・講談社・ふしぎな卵がくりひろげるナンセンス絵本です。
- ◆ユートムとヒ・斎藤隆介文・滝平二郎絵・岩波書店・若者のユートムが猛獣のヒにたちむかいます。斎藤隆介の遺作となりました。
- ◆パバの大飛行・プロヴェンセン著・福音館書店・のんびりした時代の雰囲気伝える絵と、ユーモアのある文の絵本です。

読み物

- ◆きをつけて・チャーリー・アリキ著・岩崎書店・何度も注意されるチャーリーと、注意するおかしなさんが自分のことのように…。

ぼくはひまこ・岩本敏男著・偕成社◆みどりの森はだれのもの・マリー・マルクス著・さくら書房・自然破壊と、環境保護を描いた物語。◆迷子の天使・石井桃子著・福音館書店・そっかしいお人よしさんや、迷子の猫やさまざまなタイプの子どもたちが登場します。

◆ぼくたちの戦争・田波靖男著・実業之日本社・疎開児童としての著者の経験をもとに書かれました。それでは最後にその他の分野の本です。

- ◆冬の花びら・高田宏著・偕成社・雪の研究に一生を捧げた科学者中谷宇吉郎博士の評伝。
- ◆みどりの色のまゆ・穂高北小学校郷土研究会編・さくら書房・全校をあげてのヤマユガの飼育観察の体験記録です。
- ◆下町だいたすき・東京下町の子どもたち文・木戸征治写真・あかね書房・子どもたちの作文と写真で、下町のくらしがいきいきと綴られています。
- ◆マールダグちそうさま・金田常代著・偕成社・ネパールやインドの民族料理を紹介しています。冬休みに親子で作ってみては？
- ◆冬こそ読書の季節とも言われています。あなたの本棚として図書館を積極的に利用して、楽しいひとときをすごしてください。

ボランティアさん活躍中

点字図書・声の図書が出来るまで――

図書館の養成講座を終えた、点訳・朗読ボランティアの皆さんがそれぞれの会を発足させて約二年を過ぎようとしています。養成講座が終わったとき、やさしい絵本の点訳・朗読から始めたボランティアさんも、日々の研さんの結果すっかり熟達され、今では分厚い小説や難しい専門書もどんどん点訳・録音しています。

▽「点訳グループあけぼの」(会長 梶原ゆみ子氏)は、会員61名、昨年度は58タイトル129冊、今年はそれをさらに上まわる量の点訳図書を制作しています。

利用者の希望を第一に、選ばれた本をまず下読みし、読みづらい人名・地名等の固有名詞を丹念に調べて、一字一字を点字におきかえていきます。点訳したものは、自分の目で読み直し、さらに正確を期すために読み合わせをします。この「校正」は毎週水曜日の一時から五時まで図書館で行われ、多くのボランティアさんが参加されています。

一冊の小説が六冊の点字本に……

コンパクトな小説も点字本になると膨大な量になります。ベストセラー、渡辺淳一著「化身」も上下それぞれ六巻、膨大な労力の結晶です。



ボランティアさんが一字一字点訳し7ヵ月かけて作った貴重な本です。

会員相互で何度もチェック

▽「朗読グループあけぼの」(会長 栗原和友氏)も、会員61名、昨年度一年間の制作数は79タイトル390巻。このほか9種類のテープ雑誌の制作、対面朗読等、活発に活動しています。

朗読する前に、下読みして丹念な下調べをするのは点訳と同じ。図や表があれば読み方を工夫して、90分テープにふきこみます。90分テープ1本完成させるのに、最初は何ヶ月もかかりましたが、慣れ

た今では一日か二日で行える場合もあります。完成したテープは会員相互で聞き直し、読みまちがえがないか何度もチェックします。

一番長い録音は……?

一冊の本を朗読するところのくらの長さのテープになるか、考えたことがあるでしょうか? 赤川次郎のシリーズで約5巻、二段組の小説だと10巻余。横綱は井上ひさしの「吉里吉里人」で31巻にもなりました。

完成したテープはマスターテープとして永久保存し、複製したものを利用者に貸出します。

すばらしい録音がたくさんありますが、著作権法の制約があるため、目の不自由な方たちを優先してご利用いただいています。

声の雑誌

「としよかんジャーナル」「天声人語」「FMファン」「新おつきあ

御幸分館に巡回文庫新設

図書館では、かねてから配本の要望がありました東公民館御幸分館に、巡回文庫を新設し、11月1日から貸出しを開始しました。

配本冊数は、一般書、児童書

い事典」「暮らしの手帖」「科学マンスリー」「時事ダイジェスト」「暮らしと健康」「落語」本紙」と「よかん」計10種類の声の雑誌を



定期的に制作し、複製・発送までお願いしています。年間延送付巻数は6千巻以上にのびります。

朗読ボランティア養成講座

「朗読グループあけぼの」は、図書館の委託を受けて、新しいボランティアを養成するための講座を行っています。さまざまな障害を乗り越え、強く、たくましく、ボランティアの輪が広がっていくことを願っています。

紙しばい、合わせて500冊で、一人5冊まで2週間、どなたでも借りられます。

これで、巡回文庫の配本力所は27カ所。5ヵ年計画で配本冊数の増冊もすすめています。「私の本棚」として、お気軽にご利用ください。

貸出券の更新を忘れずに

「あなたの貸出券の有効期間はいつですか。貸出券の裏を見てください。期限がきていたら一階カウンターで更新してください。期限が切れているからと捨てずに、図書館で更新処理をして、引き続き今お持ちの貸出券をご使用ください。更新の際、住所・電話番号等の変更があった方は職員にお申し出ください。また、折れたり汚れたりした貸出券は、同じ番号で新しく作り直します。」

点検中

利用者用端末を利用した時、探している資料が貸出中かどうかを調べる画面(資料情報???)画面)に、「点検中」と表示される場合があります。

点検中と表示される資料は、特別整理期間に点検もれなどで点検できなかったものです。年一回です。これらを書架で発見したり手元にある場合はカウンターにお知らせ下さい。

また、探している資料が「点検中」と表示されても、あきらめずに、予約カードに記入の上、リクエストしてください。できる限りご希望にお応えいたします。

読書活動推進講座 谷川俊太郎氏

今回の講座は読書会形式で行われ、参加者に記入していただいた質問票をもとに進行しました。

まず、あらかじめ指定された4冊の本について、参加者からの質問も交えて、谷川氏よりお話がありました。

(1)「ことばあそびうた」

もともとは口で唱えて耳で聞くはずのものであった詩が、印刷されたものを黙読するようになってきた。そういう状況に対して、日本語の音楽性を回復するには、ど

のように韻をふめば、日本人の耳に楽しく聞こえるかという実験が

ことばあそびの始まりだった。

意味内容を考えないで、おもちゃのように、母と子が2人で遊んでくたさるのが一番好ましい。

(2)「にほん」

詩を書いていく過程で、ことばを考えざるを得なくて、日本語を対象化することが必要になってくる。そういう過程で日本語に対する興味も生まれ、この「にほん」も生まれた。

ずいひつ講座

三木 卓氏

10月12日(日)詩人で小説家の三木卓氏を迎えて第1回ずいひつ講座を開催しました。

氏は、詩人で出発する以前にも散文や小説を書いてはいたが、消極的でありエッセイをあまり意識しないできた時期が長かったというところから話を始められました。エッセイというのはその作家のありのままの力量が出るものです。例えば、優れた小説や詩、論文を読んで感銘しても何か物足り

こういう形の教科書もあり得るということと言いたかっただけで、この本が規範とかお手本になることは望まない。

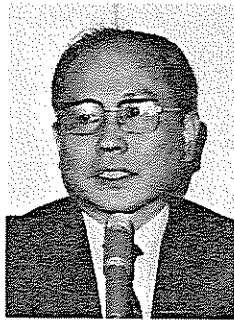


谷川俊太郎氏

正しいことばよりもっと大事なものは、生き生きしたことばだと考えている。

(3)「わらべうた」

マザーグースを翻訳した経験から、日本の伝承わらべうたにも



三木 卓氏

ということ。何か自分の指紋の跡のようなものが欲しい、そのためには限りなく自分に忠実にならないと出てきません。普段の良

識・常識の仮面をかぶった、そういう社会から身に付けた最大公約数としての自分ではない個性を見つけて出すことが重要です。そうすることによって世界のどこにもな

おもしろいものがいっぱいある。詩として読んでおもしろいものだけを選んだ。

(4)「ことばを中心に」

エッセイとか批評文のようなものから選んだもので、全部読んだ人はいないのではないかと。

次に、質疑応答に移りました。講座の始まりは、参加者からの発言があまり出ませんでした。谷川氏のユーモアあふれるお話が続く中で、徐々に和やかな雰囲気になって、活発に質問が出ました。また参加者のたつての希望により谷川氏が自作朗読し参加者一同耳をすまして聞き入っていました。

い自分らしいものが書けるはずで

また、ずいひつは皆さんに差し上げる、私という人間はこうなんですよといういわば自分自身のリポートだと思えます。ですから、ずいひつがその人間の飾りになつては具合が悪い訳ですが、私達は気が付くと案外虚栄心を発揮してしまっていたりすることがあります。そので注意しなければいけません。質問にも一つひとつ具体的に答えてくださり、氏の誠実で温厚な人柄が伝わってくる講座となりました。

ブックポスト 移転のお知らせ

市庁舎、及び中部公民館の移転に伴い、ブックポストも移転いたしました。

新市庁舎玄関前には、10月6日に、また、新中部公民館(旧市役所別館・南館)玄関前へは、10月24日に、それぞれ設置いたしました。

今後とも御利用ください。なお、レコード・テープ類、及び大型本につきましては、従来通り、図書館まで直接お待ちください。

目次箱

問 「旅」の本をいれてください。「宇宙に関する本」をたくさん読みたいのですが。答 目安箱にはこのように図書購入希望の投書が多くみられます。読みたい本が図書館においてない時は、各階カウンターに置いてあるリクエストカードに希望の書名を記入し、係員に渡してください。なるべく希望にそうようにしていきたいと思えます。

合同読書会

日時 12月7日(日)
午後1時30分～3時30分

場所 市立図書館3階集会室

講師 阿刀田高氏

テーマ 「小説について」

定員 120名

主催 市立図書館・

宇都宮市読書会連合会

受付 11月28日(金)から

その他 受講者は講師の著書を1冊読んできてください。

落語会

第26回落語会を開催します。

生の落語会の模様を「声の図書」として作成し、目の不自由な方々に、「聞く読書」を

楽しんでいただいております。

寄席の雰囲気を出し、さらに、盛り上げるためにも、ぜひご来場下さい。お待ちしております。

日時 1月17日(土) 午後3～5時

場所 市立図書館3階集会室

製本講座

日時 62年1月18日

午後1時30分～4時30分

講師 石井力太郎氏

(製本文化技術賞受賞者)

場所 市立図書館3階集会室

内容 はがきの製本

定員 60名

受付 1月9日(金)から、直接または電話で市立図書館へ。

教材費 一、二〇〇円

持参物 筆記用具・のりばけ・はさみ・古新聞・手ふき・セロテープ・ものさし・画びょう・エプロン・かなづち・目打ち・カッター・ベニヤ板・はがき

読み聞かせ講座

日時 12月21日(日)

午後1時30分～3時30分

講師 松居友氏(福武書店児童書部編集長)

場所 市立図書館3階集会室

テーマ 「絵本と子ども」

定員 120名

申込 12月12日(金)から、電話または直接、市立図書館へ。

読書相談員を設置

図書館では10月から、利用者の読書相談・資料相談に積極的に応えるために、一般開架室や児童室を読書相談員が巡回しています。

疑問な事はお気軽にお尋ね下さい。

貸出状況

区分	61年10月	61年度累計 61/4～61/10
登録者数	716人	106,018人
貸出人数		
館内	17,924人	126,634人
視聴覚	2,002	13,449
館外	3,637	20,563
計	23,563	160,646
貸出冊数		
館内	59,139冊	416,013冊
視聴覚	4,664	31,593
館外	15,426	87,690
計	79,229	535,296

(注) 登録者累計数は、開館からの累計数

10月の	館内	1日あたり	館外	1ステーションあたり
貸出人数	717人		30人	
貸出冊数	2,366冊		127冊	

利用案内

○開館時間

午前9時30分～午後7時
ただし、児童図書室は
午前9時30分～午後5時

○休館日

毎週月曜日
国民の祝日

○貸出は
図書整理日(毎月初日または翌日)

一人5冊。2週間以内。

○年末年始休館

61年12月28日～62年1月5日

この期間は、返却はブックポストを御利用下さい。

移動図書館車の運休

61年12月19日～62年1月8日

62/1月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
				①	②	③
④	⑤	6	7	8	9	10
11	⑫	13	14	⑮	16	17
18	⑲	20	21	22	23	24
25	⑳	27	28	29	30	31

12月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
						①
②	3	4	5	6		
7	⑧	9	10	11	12	13
14	⑮	16	17	18	19	20
21	⑳	22	23	24	25	26
27						
⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖

ボランティア製作

あたらしい本

▽いい女への旅立ち・フランスレストラン紀行(安喰とみ子)▽授乳と離乳食・幸福人生まっしぐら(宇佐美玲子)▽新アメリカン・リポート(横山嘉子)▽非行(木村あい)▽ぼくらの栃木県(藤田東子)▽世界ミステリ全集(渡辺美晴)▽一日だけの殺し屋(吉野直利)▽裁きの家(田中義子)

点訳図書

▽千一夜物語(猪瀬鏡子)▽はだしのゲン(小村ヒサ)▽かあさんの歌(山下夕美子)▽くもの糸(田中光子)▽おねだりポンコとわがままコンタ・オキクルミのぼうけん(渡辺ふみ)▽あらしの夜の出来事(前田たか子)▽白い顔・黒い手(吉田紀子)

寄贈

山本利男「詩集葬花」。藤原たかを「麥笛」。河住玄「梅窓書屋詩稿」。甲斐義安「生涯を婦人運動とともに」。上野福治「ひとつの座標」。橋本昭次「下野歳時記」。小倉嘉子「午前の水」。植松平八「世界の巨匠シリーズ」。ほか多数。